

多文化共生シンポジウム in いわぬま

— 多様な市民の力を活かした地域づくりを考える —

- ①開催日 2022年12月18日(日)
- ①開催場所 岩沼市民会館 中ホール
- ①プログラム
 - ◎現状報告 宮城県経済商工観光部国際政策課長 渡邊 浩幸
 - ◎基調講演 岩手大学国際教育センター 教授 松岡 洋子氏
 - ◎パネルディスカッション
 - コーディネーター (公財)宮城県国際化協会 総括マネージャー 大泉 貴広氏
 - パネリスト (株)にしき食品 業務管理部システム課 課長 庄司 昌彦氏
 - (株)利久 技能実習生 チャム ティ トウ ホン 氏 (ベトナム出身)
 - (公社)青年海外協力協会(JOCA 東北) マネージャー 星 英次 氏
 - 岩沼北中学校・亘理中学校 非常勤講師 菅野 ルカ 氏 (台湾出身)



宮城県では「多文化共生社会」の実現を目指し、平成31年3月に「第3期宮城県多文化共生社会推進計画」を策定し、「外国人県民等とともに取り組む地域づくり」を推進しています。去る12月、地方創生推進交付金を活用し多文化共生事業に取り組んでいる岩沼市でシンポジウムを開催しました。

『多文化共生社会』とは、国籍、民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し、地域社会の対等な構成員として、共に生きる社会です。

在留外国人の現状

宮城県の在留外国人の推移



法務省在留外国人統計 各年 12 月

岩沼市の在留外国人の推移



法務省在留外国人統計 各年 12 月

在留資格別外国人の割合 (岩沼市)



法務省在留外国人統計 2020 年 12 月

基調講演

「外国人移住者と受入れ市民がつくる多文化社会」 岩手大学国際教育センター 教授 松岡 洋子 氏

皆さんこんにちは、松岡です。大きな課題をいただいたのですが、今日のお話は大きく4つです。

今日の話のポイント

- ◎日本は多文化社会?!
- ◎「多文化」「共生」ってなんだろう?
- ◎多文化社会の在り方?
- ◎岩沼の多文化社会で共に生きること



多文化社会って何?ということ、多文化と共生って何だろう、どういうやり方があるのか、じゃあ岩沼はどうするの、という話をしていきます。

ちなみに、岩沼市在住外国人の1位はベトナム人で全体の約44%です。2位はフィリピン人。在留資格では、技能実習生が1位となっています。



<講師プロフィール>

専門は日本語教育、移民政策、多文化コミュニケーション。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員、自治体国際化協会地域国際化アドバイザー等で多文化社会の課題に取り組む。

—日本の総人口はこの1年間でどのくらい減少したでしょう？

日本の総人口は、この1年間でどれくらい減少したでしょうか。答えは85万人。この数は、私が住んでいる岩手県の人口の4分の3に相当します。日本の人口は、15年前の政府の推定を遥かに上回る勢いで減少しています。もの凄い少子化、それに加えて高齢化が激しい。こういうわけで労働人口が不足していると言われてます。こういう状況になると、やはり外国人が必要だろうという議論があちこちで起こっています。

—人口減少・労働力減少の影響と課題解決の手段

人口が減って労働力が減るとどうなるかという、まず社会を動かさなくなります。働く人がいない、税金を払う人がいない、消費をする人がいないので、社会保障制度が持たなくなると言われています。それから、コ



コンビニやファミレスの24時間営業、すぐに届く宅配便などの便利な社会システムの恩恵が受けらなくなります。そして、世界の中での日本の経済的地位が下がっています。円安も加わり、2020年のOECD調査では、とうとう韓国に抜かれて22位になってしまいました。こういった課題を解決するため、政府は産業構造の転換、女性、高齢者の活躍、DX やGX の活用などによる生産性の向上、そして外国人労働力の導入を進めています。

外国人生活者も観光・ビジネス客もすでに、あなたの隣にもたくさんいます（そして、これからもっと増える！）
「もし、居たら…」ではなく
「居て当たり前」という前提で
備える時代になっています！

ー「多文化」「共生」って何だろう？

じゃあ、「多文化」「共生」って何だろう、という話です。総務省は「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義しています。

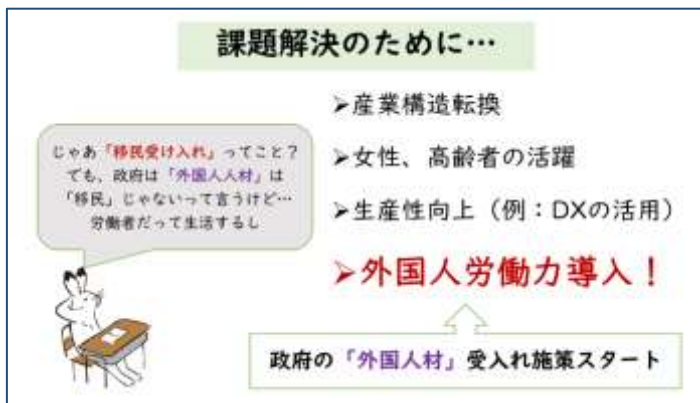
世界では、欧米を中心とした“Intercultural Cities”という連合があります。「異文化の相互作用と包摂を促進する政策、行動」、つまり、色々な人たちが社会にいて当たり前という政策、行動は、起業家精神、文化的多様性に関する多様なスキルと相違性から莫大な利益を得ることができる、と言っています。外国人は脅威じゃなくて、財産、資産として考えましょう、それが大事だと。そして、ヨーロッパは、人権、民主主義、法の支配、この3つの原則は崩しません。移民が入ってくることで、社会の中に色々なニーズが出てきますが、それに社会が適応していく。移民ではなく、社会の方が適応していくんです。それで、偏見や差別と積極的に戦ってくださいね、としています。これが“Intercultural Cities”の理念として揚げられています。

ー外国人が地域で暮らすのは難しい

こういう格好良いことが言われていますが、そんなに簡単なことではありません。まず、社会的ルールが難しいです。ゴミの捨て方一つをとっても、どれが何ゴミなのかよくわからないです。留学生に「このゴミなんだ。」と聞いても、意見が分かれます。難しいです。

それから、社会制度が外国人にまだ合っていない。例えば、教育です。就学義務が外国籍の児童にはありません。入ってもいいけど、入らなくてもいい。入れてあげるよ、と言っても、日本語が出来ない児童に対応できる先生がほとんどいないです。

そして、コミュニケーションが難しいです。言葉の問題もありますが、それだけではなく、常識がずれています。日本語ができれば大丈夫なんですよ、ってよく言われますが、そんな簡単な話ではありません。母語で伝えられても意味が通じないことがよくあります。岩沼も東日本大震災で津波の被害があったと思いますが、世界では「津波」を知らない人の方が多いです。津波を、“tidal wave”とか“high wave”と母語で説明されても、ピンとこないのが意味がわからない。あなたの常識は私の非常識だというように、お互いに常識がずれているので、どちらが良いとか悪いとかの話ではありません。言葉だけで解決する問題は実は少ないです。



ー経済状況を維持するために(目標 GDP成長率1.24%)は、どの程度の外国人労働者が必要？

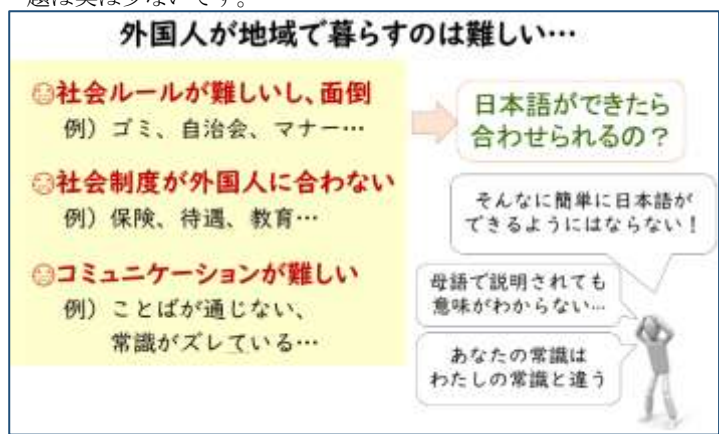
では、現在の経済状態を維持するために2030年にはどれくらいの外国人労働者が必要でしょうか。JICAの調査研究資料によると、機械化の進展によって異なり、設備投資がぐっと推進された場合でも現在の約2倍の約419万人が必要になるそうです。やや推進された場合は約840万人、今とほとんど変わらない場合は約1千179万人。そして、2040年には、674万人から2千183万人が必要…びっくりです。どうしようって思いますね。でも、これでも甘い、という人もいます。人口減少、少子高齢化は待たない状況です。

ー外国人を受け入れた日本で予想される変化

外国人が日本に来てくだされば、人手不足の解消が若干進むと思われます。また、色々な考え方が入ってくるので、新たな発想が導入されます。そして何より、若い、意欲のある労働力が入ってくるので、職場が活気づくことが予想されます。

一方で、外国人が入ってくると、ちょっと安くても大丈夫だろうと、特に単純労働層の賃金が下がる可能性が出てきます。それから、コミュニケーションが上手く取れないことで衝突、摩擦、差別が起きる場合があります。そして、外国人が目立ってくると、実際には起こってなくても、犯罪が多くなるんじゃないか、職の奪い合いが起こるんじゃないか、といった不安が出てくる、そういった空気になることが予想されます。

外国人はすでに皆さんの隣にいらっやいます。見えない、とか言っている場合じゃありません。今までは、もし居たら…という話でしたが、もう違います。「居て当たり前」ということでやっていかなくてはいけない時代になりました。



ー受け入れる側はどうしたらいいのか

じゃあ受け入れ側はどうすればいいのか。近所町内のルールをどうすれば伝えられるのか。災害の時に外国人にどうやって避難を呼びかければよいのか。それから、お店に外国人のお客さんが来てどうしよう、そういう時に、私たちは「誰か外国語ができる人がいないと駄目なんじゃないかな」と単純に思うのですが、そう単純ではありません。

ー多文化共生ってことばが通じるという状態じゃないの？

多文化共生ってことばが通じる状態じゃないの？ってよく言われますが、そうではありません。外国人は英語ができる、と思込んでいる人も

多いですが、そんなことはないんです。実はこれは思い込みで、英語が通じない人の方が多いです。例えば、岩沼では在住外国人の半分がベトナムの方です。ベトナム人の技能実習生で、英語がわかる人はそんなに多くありません。



多文化共生ってことばが通じる状態じゃないの？ってよく言われますが、そうではありません。外国人は英語ができる、と思込んでいる人も

多いですが、そんなことはないんです。実はこれは思い込みで、英語が通じない人の方が多いです。例えば、岩沼では在住外国人の半分がベトナムの方です。ベトナム人の技能実習生で、英語がわかる人はそんなに多くありません。拙い英語と拙い英語で喋るよりも、日本語のほうがいいかもしれない。簡単な日本語ならわかる人も増えています。

それから、ことばは万能だと思われていますが、心と、ことばと、しくみには壁があります。皆さんも思い当たるところがあると思います。良い悪いの問題ではなく、「ちがう」とやっぱり、「ごめんなさい」ってなるんです。これはしょうがありません。しょうがないことを知ったうえで、じゃあどうしたらよいのかということを考えてほしいです。言葉が通じないと、面倒くさいから話さない。人間も動物ですから知らないモノは怖いと感じます。そして、しくみのこと。学校のこともそうですが、急に

来られても、なかなか対応できないということがあります。プラス、知識と経験が違います。移住してきた方というのは、人間関係から何から全部作り直しになります。それを半年、1年でやれといっても無理です。私たちはコミュニケーションとると簡単に言いますが、言葉も違うし、ルールも違うので、「うん」も「うん」じゃない、ということがよく起こってきます。じゃあ、どうしたらよいのでしょうか。

ー「ちがい」がなぜ問題になるのか

外国人が入ってくると、みんな同じでしょと思われるんですが、「ちがい」があります。例えば、震災の時に言われたのが、「なんで並ばないの、1人1つ並んで受け取るのが常識でしょ」。でも、やったことがなかったらできないです。国によっては、早い者勝ちじゃないともらえないかもしれない、というところから来ている人もいるわけです。

それから、話が通じないと面倒くさいとか、みんなと同じようにしろとか、特に日本は同調圧力がすごく強いと思います。逆に、外国人らしさを求めるというのがあります。例えば、外国人って英語ができるんでしょ、ハグするんでしょ。そんなことありません、色々です。でも、何となく思い込んでいることをやらないと、「変な外国人」になってしまいます。

想定外になると、びっくりしたり、怒ったり、諦めたり、ここが問題の根本としてあります。

ー多文化社会にはいくつかのパターンがあるらしい

どうも多文化社会っていくつかパターンがあるみたいです。

同化主義(その社会の言語・習慣に合わせる)

同化主義というのは、例えば、カエルやカバ、サルが、ウサギのコミュニティに移住して来た場合には、皆ウサギ語を使って、ウサギのようにならなければならない、というものです。日本がこのタイプだと思います。

多言語多文化主義 (国、社会の中にさまざまな言語・文化があることを認める)

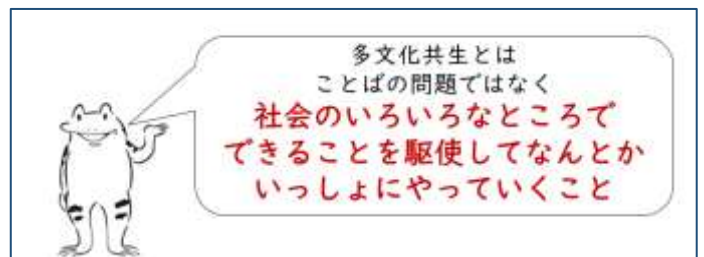
多言語多文化主義では、国や社会の中に、色々な言語や文化があってもいいよ、と認めます。いいのですが、問題が起こってきます。言語間、文化間で共通のものが無いと、一緒に何かをするということができません。だから、英語を勉強して共通語にすればいい、と言われるんですが、そんなに簡単に英語ができるようにはなりません。そもそもなんで英語なの、と思います。常識や価値観も違うので、言葉だけではうまく伝わらないことがたくさんあります。

複言語複文化主義 (個人の中にある、さまざまな言語・文化資産の使用を認める)

複言語複文化主義は、多言語ではなく混ざります。英語と日本語ができます、ではなくごちゃごちゃです。分かりにくいですが、一人一人の中に色々な言語があってもいい、全部が完璧ではない、できることが限られている、でもそれを使おう、それは文化資産なんだということです。例えば、ウサギは普段ウサギ語を使うけど、ネズミ語でネズミに道案内ができる。なぜかという、しょっちゅう道を聞かれるから。それから、カエルの昔話が面白いと思って聞いているうちに、カエル語で何となく話が聞けるようになった。ある日、海に落ちた時にイルカに助けてもらって、「助けて」というイルカ語だけ覚えた。だからウサギは、イルカ語が流暢、カエル語が流暢、ネズミ語が流暢というわけではないけども、それぞれの場面ですることがある、これが複言語複文化主義です。カエルに、海で溺れて助けてと言っても、カエルは小さい海にもいないので、これはできてもしょうがないです。どこで何ができるのか、ということに注目するのがこの考え方です。

出来ることを出来ることからOKなんです。英語を勉強すると、完璧に文法もマスターしないとだめだよなって思ってしまうんですが、そんなことはありません。ヨーロッパでは地続きということもあって、子どもからお年寄りまで色々な言語を勉強します。例えば、ベルギーの電気屋さん。ベルギーは多言語国家で色々な言語の人がいるので、ベルギーの電気さんは工事に行くと、まずはフランス語で話してみ、ちょっと違うという時はドイツ語、これも違うかじゃあ英語、という風に対応します。電気のことではできる、でも本を読むことは出来ない、そんな風に生活していくのが普通です。日本も段々、そんな風になっていくのではないかと思います。

多文化共生とは、ことばだけじゃなくて、社会のいろいろなところで、何とか出来ることを駆使して一緒にやっつけようとする、なんだろうなと思います。



ーいろいろなところとは？

いろいろなところってどこだろう、という、EUで利用されている移民統合政策指標というものがあります。8領域(労働市場、家族結合、教

育、健康、政治参加、永住許可、国籍取得、差別禁止)と一緒にやりましょう、と言っています。

それらを数値化して、2年前に56か国を評価した結果、1位スウェーデン。さすが北欧、という感じです。ドイツが14位、そして韓国が18位なんです。なんと日本は35位。どうしましょう。お隣の韓国と、実は外国人労働力の獲得で競争している最中なのですが、まあ負けたなという感じです。本当に3周遅れぐらいの状態になっています。

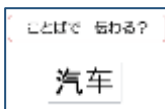
「多文化共生」をイメージする

多文化共生社会をイメージするってどういうことでしょう。



これはわかりますか。ドイツ語です。どちらが男性でしょうか。正解は右側です。私はドイツに出張があると、ドイツ語がわからないので、トイレの前で困って次の人が来るまで佇んでしまいます。

漢字だったら、筆談できるかもしれない。これはなんでしょう。自動車だと思いますよね、正解は車です。筆談もできないんですよ、実は。



これはどうでしょう。目です。このビーというのはプールの時のシャワーででしょうか。正解は有毒物が目に入った時に目を洗うシャワー。アメリカのバイオテロ対策のサインにあるのですが、わかりませんよね。

ピクトグラムって最近よくありますよね。左は「手話通訳あります」。真ん中は「立入禁止」ですが、何で青なの、赤の方がいいですよ。右は「避難経路」。わかりませんよね。なんでこんな漢字なのでしょう。



ジェスチャーなら大丈夫でしょうか。これなーんだ。岩手大の学生は電話って答えましたが、これは中国で「数字の6」です。



これはどうでしょうか。これをマレーシアで学生に向かってやったら、あっちに行っちゃいました。日本ではこっちに来いですよね。身振り手振りにも文化の差があることがわかります。

ちなみに、手話はユニバーサルなのかと思っていましたが、あれこそ、すごく文化が入っています。残念ながら、手話通訳にも手話通訳が必要です。異文化、異言語のコミュニケーションは大変です。大変だけど、どう違うのかな、もしかして違うんじゃないかな、と思っているだけでないか変わってくるのではないかと思います。

異文化コミュニケーションの難しさ

というわけで、言葉がわからないと、単純なことがわからない、推測ができません。また、ルールや尺度が違うと意味が理解できません。この靴のサイズは8ですと言われても、それは何cm?となります。そして、サインは意外とユニバーサルではありません。例えば、郵便局のマーク「〒」が通じるのは日本と中国だけです。ジェスチャーも文化的要素があるので通じません。それから、常識が異なると、なんかちよつと変だと思えます。例えば、日本人は電話をしながらお辞儀をします。あれは、すごく変に見えます。

このように違いがあると、嫌悪や排除、差別、強制、過剰対応、遠慮などネガティブな反応も起こります。そんな時に、基礎知識として、私たちはつい同じだと思って接してしまうけれど、この人たちは私たちとは違うんだということを知っておくといいと思います。自分も向こうから違うと思われているし、お互いさまだということを知っているだけで違います。そして、きつこういうところで何か問題が起こるだろう、という想定と、じゃあどうしたらいいか、という解決方法を想像するだけでだいぶ変わってきます。あとは、対応力として、なんか変だなと思ったときは、いったん棚上げすることが大事です。それから、寛容。なかなか我慢できないですが、そこをぐっと堪える。そして傾聴。あとは仲介力。どうしても分かり合えない人同士の中に入って、仲立ちしてあげる。あとは、変だと思わないで、何でだろうと好奇心を持つ。これだけでだいぶ変わってくると思います。子どもたちには、是非、こういう力をこれから伸ばしていって欲しいです。そして我々大人も、こういう力を磨いていく必要があると思います。

岩沼の多文化社会で共に生きること

最後に、「岩沼で何ができるのか」という話です。まず、一緒に働く。じゃあどうしたらいいの。もし、言葉の問題があるのだったら、どういう風に解決できるのか。それから、ともに楽しむ。楽しむのは大事です。それから、ともに役割を担う。そして、ともに助け合っって課題に向き合う。お互い違うということを前提にして、違うんだよ、ということにちょっと気を遣っていただいて、じゃあ何ができるのかな、ということを考えていただくといいと思います。

具体的に何があるのといったら、とりあえず声をかけてください。あいさつをしてください。一言声をかけてくれるだけで、あ、近寄ったなという気がします。それから、楽しめることを見つけてください。スポーツとか音楽とか何でもいので、皆さん一緒に。そして、知り合うこと。大学で留学生と日本人生徒が鍋料理を一緒に作ってみると、すごく面白いものができます。美味しいかどうかは置いておいて、インターナショナル鍋になります。そして、ともに助け合う。防災訓練やボランティアと一緒にやるということはすごく良いことなので、取っ掛かりを色んな場面で作っていただけるといいと思います。そして、ともに課題に向き合う。町内のルールやマナーは、先程のゴミの話もそうですが、なかなか難しいところがあるので、ちょっと一緒にやってみる。こうだよと教えるというよりも、ちょっと一緒にやって、ここ違うんだ、へえ、という気づきから、じゃあどうしたらいいのかなという風にやっていくとか。皆さんお一人一人が、あまり肩肘張らずに、自分が出来る範囲でやっていく、そこから始めるのがすごく大事だと思います。

これは「アメリカの竜巻情報」です。日本語に翻訳すると、「竜巻が目撃、または気象データに示されました。生命や財産に危機が迫っています。頑丈な建物の最下階の室内に移動してください。窓から離れてください。移動式住居、車または屋外にいる場合は、最も近いシェルターに移動してください」となりますが、アメリカの事情が分からないと、シェルターって何？移動式住居って何？という風にわかりませんよね。私たちも異文化に接すると、何だこれと思うわけで、日本にいる外国人も同じです。

パネルディスカッション

「現在進行中！私たちがつくる多文化共生のまち 岩沼」

大泉コーディネーター

岩沼市では、色々な立場の外国人の方が活躍しています。そういった方々を支えよう、という動きもあります。今日は、現場の最前線にいる4名の方から、岩沼の多文化化の現状や、共生の動きについてお話を伺います。

(株)にしき食品 庄司 昌彦 氏 家族のためにフィリピンから岩沼にきて 頑張っている技能実習生を支えたい

庄司氏

にしき食品では、37人の技能実習生と特定技能の外国人が工場で働いています。全員フィリピン人女性で、会社の寮に住んでいます。私は、彼女たちの日本語教育や日々の生活全般の管理の仕事をしています。

大泉コーディネーター

最初からこの仕事をされていたわけでは無いんですね。

庄司氏

元々はシステム全般を管理する仕事をしていました。私がにしき食品に入社した頃、技能実習生の受入れが始まりました。家族を助けるためにフィリピンから来ている彼女たちは、すごく明るくて、バイタリティーがあるように見えて、一緒に仕事してみたいと思っていました。受入人数が増えてきた時に、会社としてもサポート体制を強化していく必要があると思い、上司にぜひそういう仕事をしてみたいと言ったことで、今の仕事に携われるようになりました。



大泉コーディネーター

技能実習生が困ったことがあったら、いつでも相談に応じていると聞いています。

庄司氏

私が担当になってからはFacebookというSNSのツールでやり取りをしています。彼女たちは英語ができるので、私も英語で返信したり。困ったことや悩んでいることがあったら、いつでも連絡してくださいと話しています。

大泉コーディネーター

対応に困った案件もあったと伺っています。

庄司氏

休日だったんですが、実習生からビデオ通話で連絡がきて、「寮に蛇が出たので助けてください」と言われました。寮の玄関の前に蛇がいて、彼女たちはパニック状態でした。警察や警備会社に何とかできないか相談しましたが、そういった事案では出動できないと言われていたので、私がパーベキュー用のトングで捕まえて、近くの川の対岸の方に投げて解決した、という案件がありました。

大泉コーディネーター

にしき食品のカレーの美味しさの陰には、フィリピンの技能実習生の働きとそれを支える庄司さんの勇気と優しさがあるということですね。

(株)利久 チャム ティトウ ホン 氏 日本人の友だちと過ごす時間が大好き ホン氏

2018年に来日してから、4年間利久で働いています。毎日、8時から5時まで特製のソーセージ等を作っています。原材料の仕分け整形や厳しい製品の検査などの仕事をしています。忙しい時は残業もあります。

大泉コーディネーター

利久に技能実習生は何人くらいいますか。ホン氏

40人くらいいます。これは、会社でベトナムのテト(旧正月)をお祝いした時の写真です。



大泉コーディネーター

仕事以外にも楽しいこともしているんですね。お休みの日にはどんなことをしていますか。

ホン氏

日本人の友だちと過ごす時間が好きなので、休みの日は出来るだけたくさんの日本人の友だちと交流するようにしています。

大泉コーディネーター

利久では求人を出してもなかなか人が集まらなかったのが、技能実習生を受け入れるようになったそうです。技能実習生の皆さんは真面目でしっかり仕事をして、大変戦力になっていくということでした。その中でもホンさんはとびきり優秀で、技能実習生や社員の方にも頼りにされている存在ということでした。

企業で外国人が活躍していることは、あまり知られていないかもしれませんが、私たちの生活を、実は技能実習生をはじめとした外国人労働者が支えているという実態があります。その良い例が、ここ岩沼市にあるということだと思います。

JOCA 東北 星 英次 氏 みんなが「ごちゃませ」になって日常的 につながり合える地域の拠点を目指す

星氏

JOCA東北は、JICA(青年海外協力隊)経験者が国内で社会に貢献するために作られた組織です。岩沼市では東日本大震災の1週間後からボランティアに従事させてもらいました。その縁もあって、現在は岩沼市の地方創生事業を受託し、その一つとして多文化共生の地域づくりに取り組んでいます。

大泉コーディネーター

今年度、MIAが宮城県から受託し、JOCA東北と共催で実施している日本語交流サポーター研修には、本当にたくさんの方に集まっていたので、率直に驚いたのですが、星さんとしてはいかがですか。

星氏

私たちも日本語講座をやらせてもらっていますが、やはり持続的、継続的に、市民が中心と

なって進めていく組織づくりが大事だと思っていました。日本語交流サポーター研修は、多い時には40人の参加者がいます。高齢の方、高校生、岩沼にも良い方がたくさんいらっしゃるんだなと思いました。今後、そういう方々を繋いで、基礎的な組織づくりができればいいなと思っています。



日本語指導講師 菅野 ルカ 氏 外国人のこどもも、学校も、保護者も安心 できる学校生活を支援したい

菅野氏

私は台湾出身です。16年前に結婚を機に日本に移住して、現在は中学校で外国人の生徒が、順調に日本の中学校の生活ができるように、言葉、生活、文化、色々なことをサポートしています。

大泉コーディネーター

外国人の生徒の中には、自分の意志ではなく、保護者の都合で日本に来た人がたくさんいます。そして、突然の環境の変化に戸惑ってしまっている子が多いです。学校側も外国人の生徒を受け入れた経験があるところは少ないので、どちら側も課題を抱えているということがあります。そうした時に、菅野さんのように外国出身で、在日期間の長い方が非常勤講師として配置されている場合があるということですね。

菅野氏

家庭の都合で母国から離れて、日本に来て、中学校に入ることはやはりすごくつらいです。意識の壁もあるし、言葉の壁もあります。私は日本語指導という立場ですが、仕事の多くは子どもたちの心のケア。あるいは学校と保護者の架け橋の役割。日本語を教えるよりも、このへんがすごく重要で力を入れています。

大泉コーディネーター

日本語や教科を教える以外に、心理的に寄り添う姿勢で接して子どもたちの心のケアをする、それから保護者との繋ぎ役もする、それもすごく重要な役割なんですね。

日本語を学ぶことの大切さ

大泉コーディネーター

菅野さんも、日本に来てすぐは全然日本語が出来なかったんですね？

菅野氏

はい。ボランティアの先生がほぼ無料でやっていた「いわぬまアイビー」という日本語講座に週一回通いました。託児の先生もいらっやっやっ、子どもの面倒を見てもらっている間に、お母さんたちは日本語の勉強を頑張ることができたのでとても助かりました。すごく良かったのは、子どもたちも日本の方と触れ合うことが増えたことです。本当に助かりました。この経験が

今の日本語指導の仕事に繋がっていると思います。私が順調に日本で生活できるようになったのは、ボランティアの先生の指導のおかげです。その恩返しのような感じです。

大泉コーディネーター

残念ながら昨年、「いわぬまアイビー」は閉鎖してしまいましたが、受講生だった菅野さんがそこで受けた思いを活かして、多文化共生を支える側として関わっていくことで、20年間の活動の意義の大きさを改めて感じます。



続いて、これはにしき食品の実習生の方が日本語を勉強しているところですか。

庄司氏

そうです。病院に行く時の用語について、JOCA東北に日本語講座を実施していただきました。

大泉コーディネーター

庄司さんは、地域の活動に技能実習生が参加することに、積極的な気持ちをお持ちだと聞きましたが、それはなぜですか。

庄司氏

弊社では外国人の受入れをどんどん増やしていく計画があります。そういう中で、トラブルなく地域の皆さんと一緒に生活しているよう、日本語講座や町内会の掃除とか、そういったところで関わりを持たせていきたいです。

大泉コーディネーター

地域と関わりを持つことの大切さを意識されたいということですね。じゃあ、日本語の勉強についてホンさんにもお聞きします。ホンさんは本当に日本語が上手ですが、どのように日本語を勉強していますか。

ホン氏

日本人としゃべれるようになりたいから、オンラインや本で一生懸命勉強してきました。会社でも、わからない日本語があればすぐに「これはどういう意味ですか」とか「この言葉は何と読みますか」と聞いて、会社の人も優しく教えてくださいます。

大泉コーディネーター

先日は JOCA 東北の防災研修にも参加されましたね。地域の人と外国人が一緒に学ぶ場所が継続的に岩沼にあるといいですね。

ホン氏

そうですね。外国人として、助かるとっと思っています。



多様な文化背景を持った人たちが、岩沼で共に暮らしていくために必要なこと

大泉コーディネーター

これから岩沼には外国人がもっと増えていくと思います。そうした多様な文化背景を持った人たちが、ここ岩沼で共に暮らしていく、共生していくためには、何が必要だと思いますか。

庄司氏

基調講演の松岡先生の話にもありましたが、日本人、外国人とひとくくりにして考えるのではなく、違う価値観の人が周りにいるのが当たり前なんだという意識の下に、個々を受け入れて、わかり合っていく姿勢を持つといいのかな、という風に思っています。

ホン氏

自分は外国人だから日本と文化が違いますが、お互いにお互いの文化を尊重し合うとか、優しい愛を示し合うことが大切だと思っています。

星氏

私はやっぱり、市民、地域の方ももっと外国人を知ることが大事だと思います。

菅野氏

私も外国人なので、やはり日本の習慣やルールを理解して守ることがすごく重要だと思います。そして、地域の活動に参加すること。参加しないと何も分からないままなので、参加して人と人のネットワークを広げることが重要だと感じます。

大泉コーディネーター

今日、4人の現場の最前線にいる皆さんのお話をお聞きして、まさに、この岩沼で多文化共生が現在進行形で進んでいることが御理解いただけたのではないかと思います。今後も岩沼の多文化共生は色々な場面で進んでいきますので、是非、関心をもって見守っていただきたいです。また、周囲の方々に今日のシンポジウムで聞いたこと、知ったことをお伝えさせていただき、多文化共生の理解者の輪を広げていただきたいと思います。

それから、もう1つ。松岡先生のお話の中に、皆さんは何をしますか、という問いかけがありました。皆さん御自身も、私は何ができるかな、何をするかなどお考えいただければ、大変嬉しく思います。



大泉 貴広 氏 (公財)宮城県国際化協会 総括マネージャー

国内外の教育機関や公的機関で日本語教育に従事した後、1999年より(財)宮城県国際交流協会(現(公財)宮城県国際化協会)に勤務。地域日本語教育推進事業、外国籍児童生徒支援事業、技能実習生と地域との関係づくり促進事業などの企画・運営を通して本県の多文化共生推進に努めている。



庄司 昌彦 氏 (株)にしき食品 業務管理部システム課 課長

宮城県石巻市生まれ。10年程システム業界で務めた後、2017年より株式会社にしき食品に勤務。社内システム担当として従事する。2021年に社内の技能実習生の生活指導担当となる。現在は業務管理部課長として40名弱の技能実習生、特定技能外国人を管理している。



チャム ティトウ ホン 氏 (株)利久 技能実習生

ベトナム社会主義共和国出身。日本についてのビデオを通じて、日本文化・日本人の仕事ぶりに興味を持つ。2018年から現在に至るまで(株)利久の技能実習生として勤務している。2021年1月に日本語能力試験N2取得、日本人との会話を通して日本語のレベルが上がるよう勉強している。お年寄りの人達の面倒を見るのが大好きなので、将来は介護福祉士になりたいと思っている。



星 英次 氏 (公社)青年海外協力協会 (JOCA 東北) マネージャー

2016年より(公社)青年海外協力協会に勤務。前職では、青年海外協力隊への参加、JICA短期専門家として技術協力プログラムに携わった経験を持つ。現在は、「岩沼市全世代活躍できる地域社会づくりプロジェクト」に関する委託業務として、多文化共生に取り組んでいる。



菅野 ルカ 氏 岩沼北中学校・亙理中学校 非常勤講師 (日本語指導講師)

台湾高雄市出身。台湾国立台湾大学大学院卒業。2015年から日本語指導講師を務め、現在も岩沼北中学校と亙理中学校の非常勤講師として勤務している。

宮城県・宮城県人権啓発ネットワーク協議会 <みんなの人権110番> 0570-003-110

※この資料は、法務省の人権啓発活動地方委託費を活用して作成しております

宮城県経済商工観光部国際政策課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8-1

TEL 022-211-2972 / E-mail kokusaik@pref.miyagi.lg.jp

人権イメージキャラクター
人KEN まる君



人KEN あゆみちゃん

